AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association
フレンド会報 23号
2016年12月1日 発行
〒102-0074
東京都千代田区九段南2-3-22
九段中島ビル３Ｆ
TEL:03-6265-6490
FAX:03-6265-6491

AEFAの3層構造理念

OUR NEXT STEP!

ともに生きる

AEFAの国際交流事業、セカンドステージへ

これまで、AEFAの各国パートナーNGOのスタッフや建設校の校長先生を日本に招へいして出前授業に参加し、直接現地の学校や子供たちの様子を伝えたり、日本の教育現場を見せたりして、現地の方々に日本の学校教育を理解してもらえるよう、取り組みを続けてきました。このことにより、ベトナムやラオス、タイなどの山岳少数民族の子供たちがそれぞれに将来の自分について大きな夢を描き、また逞しく生きている姿を感じることができました。それは、日本の子供の「生きる力」の再発見につながる活動ともなっています。

また、日本では長年当たり前のように取り組んでいる、児童生徒による清掃活動や小学校の低学年から自分たちで配膳する学校給食の様子、図書係など学級においての係活動、廊下の歩き方。さらには施設設備の様子などを実際に見て、理解してもらったことは、それぞれの国における教育のこれからの発展の姿を考える機会にもなりました。

これら取り組みの地道な積み重ねがあってこそできる、新たな交流事業の成長と展開をAEFAは目指しています。たとえば、昨年からスタートしている「日本の熱血先生の現地訪問と運動会の実施」「日本の中高校生の現地での文化交流活動とボランティア作業」「大学生の現地訪問と交流活動」。さらには、「タイ山岳地帯建設校からの中学生」「ベトナム中部の教員」「ラオスの高校生」の日本への招へいと出前授業などです。

写真提供／飯舘村

留学生たちは、日本で学んだことを活かして自分の故郷・祖国の発展と環境を改善する…という夢と具体的な目標をもって学ぶ一方、AEFAの活動に賛同し「自分たちの国のことは、いつか自分たちで解決できるよう」たとえ小さな一歩でも踏み出そうと努力を重ねています。彼ら・彼女らの姿からも多くを学びました。

AEFAの国際交流事業に参加した日本とアジアの子供たちが、お互いの国・地域や教育環境の相互理解に止まるのではなく、将来、日本とアジアの国々を結びつなげることができ、「両国の架け橋」となれるような人材が生まれたら、と願っています。もちろん、出前授業などによる「相互理解」がスタートであることは変わりありません。その「相互理解」の先に、同じ志をもち、「日本と東南アジアを結ぶ架け橋となる人」がつながっていく…。それが、AEFA交流事業のセカンドステージとなることを目指しています。

ひとこと　日本の教育問題に貢献する、小さいがキラリと光る AEFA を目指す！

AEFAの学校建設事業、フォローアップ事業、交流事業は活発に推移し、2017年の計画も具体的になっている。
そんな今だからこそ、“AEFAの原点回帰”が必要だ。

AEFAらしさ・AEFAならではの活動の深化・進化を図る。「日本の教育問題に貢献する、小さいがキラリと光るAEFAを目指す」を明確なメッセージとして発信したい。

AEFAに共感し、共鳴する仲間を増やすこと。それはたとえば、“学校”にかかわらず様々な組織に属する子供たち。日本の多くの子供が、アジアの「友達」との国際交流を楽しみ、ひたむきに頑張っている。大学生が、アジアで学校建設と交流支援活動を行っている。仕事や家事の余暇に、「アジアとのつながり」を感じながらボランティアをしてくださっている方々がいる。口幅ったいようではあるが、自らの経験を振り返り自戒もこめて、成熟社会の壮年世代が”自分自身の“人生の意義を再確認していくお手伝いをしたいと思う。

生きることは人とのつながりである。その手触り感を感じながらAEFA事業に参加していただけたらと思う。

（理事長　谷川　洋）

ベトナムの先生、日本研修各地へGO!

袋井市とレロイ小の絆、深まる

袋井市の「ワンコインスクール・プロジェクト」で、ベトナム中部クアンナム省ヒエップドゥック郡レロイ小学校の校舎が新築され、原田市長様をはじめ多くの市民の方々が開校式に参加したのが一昨年の８月末。昨年は「熱血先生プロジェクト」で袋井市の小学校の先生２人がレロイ小学校を訪問し、袋井市やそれぞれの学校の取り組みについて紹介してきました。今年は、レロイ小学校からトゥ副校長先生とヴー先生を、現地ＮＧＯスタッフのトゥイさんとともに袋井市へ招待しました。

東遊（ドンズー）運動の指導者ファン･ボイ･チャウが建立した、恩人・浅羽佐喜太郎の記念碑と墓碑へお参りし、「浅羽ベトナム会」の皆様より、詳しい説明を受けました。訪問者一行は、百年以上前に遡る袋井市とベトナムの絆が今も続いていることに、感動。学校建設支援をきっかけに、交流をさらに深めたい、との思いを新たにしました。

レロイ小の先生方による交流授業も小学校３校で実施。子供たちは、お互いの地域の似ているところを発見したり、ベトナムの遊びを教えてもらったり、興味を深めました。来年度は、袋井市の生徒がベトナムを訪問する計画です。

「ベトナム児童との違いと共通点を知る」

福井県勝山市村岡小＆クアンナム省レバンタム小

初めは緊張していた４年生42名と、レバンタム小学校クー校長先生、息子さんの横浜国立大学修士2年・カンさん。地域の共通点である「農業」について、意見交換を行いました。レバンタム小では、教員も生徒も毎日水牛の世話と農作業をしてから学校に来ています。「どうしてそんなに農業をがんばるの？」との質問に、「皆で協力して、生活のために頑張っているのです」とクー先生が答えました。村岡小の児童にとっては、今の自分の環境を考え直し、学ぶ目的を明確にするきっかけになったようでした。授業後、児童たちは「自分たちが集めた募金を学校で使ってください！」と、クー先生に贈呈。クー先生は大感激で、涙ながらに「大人である私たちは、地域のためにもっともっと頑張らなければ」と決意を新たにしていました。

「教科書だけではない学びを深める」

東京と港区高輪台小＆クアンナム省レバンタム小

ベトナムとの交流をきっかけに、2020年の東京オリンピックでベトナムの選手を応援する高輪台小学校。交流授業を行った３年生は、クー先生を大歓迎！カンさんが披露したダッカウ（羽根けり）やアオザイの試着体験も、とても積極的でした。ベトナムの児童は、絵を描くことを頑張っている理由として「自宅がぼろぼろの家なので、せめてきれいな家の絵を描いて両親を喜ばせたい」と聞き、「やさしいね…」とつぶやいていました。

VN 先生たちのFIGHT 挑戦

チャビン省タンホアA小学校
ブイ・ヴァン・ラム校長先生

活動係りと集団下校の実施

2014年７月にAEFAの招へいで来日し、８校の小・中学校を訪問しました。その際、子どもたちが責任をもって様々な学校活動を実践していたことが印象に残りました。帰国後、日本の学校の「係り活動…生き物係り、図書館係り、そうじ係りなど」を実践。また、村の子供たちの自宅を地図にして、交通安全のために集団下校を実施しています！

日本のマナーを伝える

クアンナム省レバンタム小学校
マイ・バン・クー校長先生

日本各地で訪問した学校で、クー校長先生が一番感心されたことは、生徒たちのマナーと礼儀の正しさでした。自分のことは自分でしっかり行い、挨拶を忘れずマナーもきちんとしている。靴をきちんと揃え、廊下は走らない、トイレもきれいに使う。そういった基本的な生活習慣をベトナムの子供たちにも身につけさせたい、とまずは廊下を走らず右側通行するための線を設置。少しずつですが、頑張っています。

クアンナム省レロイ小学校
グエン・ヴァン・トゥ副校長先生

挨拶をきちんとできるように

Xin Chao !
Cam on !

「日本の生徒たちの素晴らしいと思うところは、挨拶がきちんとできること。自立性があり、学校でのルールやマナーを守ること、自分たちで登下校もできる。ベトナムの生徒たちがそうできるように、まずはしっかり自主性を身につけさせたいと挨拶の練習から始めている。」（談）

Lunch Time♪

初めての給食体験！

「栄養を考えた給食は、ベトナムでも実施したいと考えています」(下)

配膳を見学するトァン局長。「皆しっかりしていて、自分たちで進んで行動していてすごい！」と感心。（上）

各地の小学校を訪問して…

どんな人にも共感の心を忘れずに

ベトナム教育訓練省・学校学力保証プログラム
トアン・ディン・トゥアン　MOET局長

日本の教育施設の充実と先生方の教育方法のレベルの高さを賞賛しながらも、「ベトナムでも、都市部では、今は親が登下校の送迎をしたり、金を払って何でもやらせるなど、本来は子供が自分たちでやるべきことを何でも“やってあげよう”となってしまっている。日本も、教育施設・教材何でもすべて提供され、当たり前になってしまってはいないか？それが当たり前でない人たちを見下したり、貧しい人への共感の心を忘れたりしていないか？ということを心配しています。」と、日本の教育へのアドバイスもありました。

生徒 先生 村人たちの夢が詰まった アーティスティックな学校ができました！

ベトナム、タイグエン省に開校したバンテン小学校とバオリン小学校の校舎には、先生と生徒の夢と希望がぎっしり詰まっています！生徒たちの夢や、先生が思い描く将来図が壁にいっぱい描かれています。「いつか日本の生徒たちと国際交流したい。」「国という境界線を越えて、絆を作りたい！」子どもたちが楽しそうに交流する姿を、先生方がペイントしました。

バンテン小学校には、モン族の生徒が在学しており、モン族ならではの伝統衣装で歌や踊りなどを披露してくれました。両学校には、現地NGOスタッフの発案により、子どもたちの交流している絵をバッチャン焼き（ベトナムのセラミック）にして学校に設置。生徒たちはウキウキした気分で開校式を開催しました。

生徒たちもアイデアを！

楽しい学校を思い浮かべ…

バオリン小の先生が作成

歌ったり、踊ったりして毎日楽しく過ごしたい。学校をそんな場所にしたい！と希望をのせて

セラミックのアートボード

日本との国際交流の夢！

日本とベトナムの友好がずっと続きますようにと願いを込めて学校に飾ってあります。

リーフラスのコーチとスポーツ大会開催！マックディンチ小学校

「スポーツを通して、子供たちが激動する社会をタフに生き抜く力を育てる。」という理念で、日本全国に３０余の教室をもつリーフラス株式会社の支援により、ベトナム中部クアンナム省ニュイタン郡のマック･ディン･チ小学校の新校舎が完成し、９月９日（金）に開校式が実施されました。式典後、校庭でスポーツ大会を開催。児童たちは、初めてのサッカーや綱引き、玉入れなどを体験しました。通常、遠足などの行事も少ないため、子供たちはこの日を心待ちにして、夜も眠れなかったそう。

リーフラスのトレーナーは、初めてのスポーツ大会に大興奮する児童らを見て、「アグレッシブですごい！いつか、日本の子どもたちと一緒にプレイさせたいです！」と、さらなる意欲に溢れていました。

初めての玉入れ

サッカー大会

ドンズー日本語学校と東大生の交流

夏休み期間を活用し、ベトナムの学校建設を支援する企業でアルバイトをしている東大生が、ホーチミン郊外の「ドンズー日本語学校ビンミー分校」を訪問。「日本が戦後いかに発展してきたか？」をテーマにプレゼンテーションと、交流を行いました。ドンズー校の卒業生で現在、横浜国立大学に在学中のレゴックバオヴィさんが研修をサポート。

全寮制で学ぶドンズー生たちは、清掃や食事当番など規則正しい生活を送っています。きれいな日本語で礼儀正しく出迎えいただきました。東大生のみなさんは、ドンズー生の「日本留学で農業機械を勉強し、故郷の貧しい農村の環境を変えたい」「故郷の役に立ちたい、発展させたい」という具体的な目標を聞いたり、日本について質問攻めにあったり、短時間でしたが熱っぽい時間を共有しました。日越双方の学生が夢を語り合い、刺激を受け、色々なことに気づき・考える機会となった研修は、これからも継続されます。

笑顔で歓迎してくれました

（この研修は、株式会社フォーサイトの主催で行われました）

参加した東大生は…

「**ドンズー日本語学校には、夢を語る環境がある。**それはとても大事なことです。日本では夢を真剣に語ることが避けられる傾向にあります。教育を通して変えていくべき。」「日本語で話しかけてくれて、うれしかった！パワフルなベトナムの方からたくさんのエネルギーをもらいました。**大学で学べる自分が恵まれた環境にいるという感謝を忘れず、何のために今の大学に通っているのか考えなくてはと思った。**学びたくても学べない人がいる世の中で、日本では自分から動けばなんでもできる環境にいるのに、夢も目標もたいしてないのはすごくもったいない…と考える機会となり、よかった。」「**日本は、自分は恵まれた状態で、どれだけ周りから期待されているか。**そしてその期待に応える重い責任があるということを学んだ。期待を裏切らないよう、努力して、また日本を発展させていかなければならないですね。」
（東大生の感想より抜粋）

ベトナム料理体験

Le Ngoc Bao Vi(ヴィ)さん

交流会の最後に、ヴィさんからドンズーの後輩たちへ、メッセージが送られました。
「ドンズーを卒業して、日本での留学生活は今よりも何倍も大変な生活が待っています。その困難を乗り越えるために、一番大切なものは皆さんの今の志です。日本の留学は夢ではありません。ただ、自分の夢を実現するための第一歩に過ぎません。この機会をどう生かすのかは、皆さん次第。初心を忘れず、夢に向かって進んで下さい。」

ベトナムの農村を訪問、SUGARとの交流

フォーサイト社が支援する南部メコンデルタ・チャビン省「タップガイC小学校」も訪問。ホーチミンから車で４時間ほどです。村は、見渡す限りの田んぼが広がります。あぜ道を泥まみれになりながら歩き、子供たちの通学の大変さを実感した東大生たちでした。

翌日は、ヴィさんがホーチミンでの高校時代に所属していた学生団体「ＳＵＧＡＲ」との交流会。ベトナムの高校生の英語・企画・行動力、なによりも「楽しみながら」活動しているエネルギーがまぶしかったそうです。しかし、高校生たちが同じ国のことなのに、全く「タップガイ」との地域格差を知らない…ということに一番驚きました。東大生たちは、自らの実体験をもとに「教育の地域格差」をなくすための通信教育の可能性について発表しました。

テオンさんがやってきた！
ラオスから女子高生を招へいしました

人生初めての海！
（津市にて）

2007年に日本財団が「小学校」を建て替え、2010年に福島県飯舘村が「中学校」を新設。その後、株式会社フォーサイト（東京）が追加中学校舎と高校を支援・・と、日本からの支援により地域の基幹校として発展、７００名以上の児童生徒が学ぶドンニャイ小中高校（サラワン県ラオガム郡ドンニャイ村）。高校1年生のテオンさん（ラオス語で、「小さなきゅうり」…という意味だそう。）が来日、支援者の飯舘村・飯舘中学校と、長年ラオスとの交流を続ける三重県津市高野尾小学校を訪問しました。

長い旅路と環境の激変で体調不良に苦しむテオンさんでしたが、学校で生徒達から大歓迎されると、それまでの顔色が嘘のようにしっかりとした笑顔に。ドンニャイ村の学校や暮らしの様子をプレゼンテーションしたり、ラオスの伝統舞踊を披露。

飯舘中学校の交流会は、生徒による企画・準備され、進行も生徒が英語で行いました。同世代の自主性の高さと英語力にテオンさんは驚いていましたが、初対面と思えないほど打ち解けて交流を楽しみました。

2016年10月4日、テオンさんが福島県飯舘村を訪問。菅野村長に、ドンニャイ村を代表してメッセージを伝えました。

福島県飯舘村を訪問！

「飯舘村のみなさんの支援のおかげで、ドンニャイの子供たちのたくさんの夢がかなうようになりました。私も、自分の国を守るという夢のため、勉強を続けることができます。ぜひ今度は私の村に皆さんでいらしてください」

「までい」（心をこめて、大切に、手間隙かけて、という意味）という言葉を大切にする飯舘村。震災前から、教育長（当時）や職員がドンニャイを訪問したり、中学生が絵本を送ったりして交流してきました。

震災後、ドンニャイでは飯舘村を思ってバーシーの儀式を行ったり、お見舞いのメッセージを送りました。

2012年2月、飯舘村の職員らが参列して、ドンニャイ中学校開校式を開催。竹灯篭を500個手作りし、「までい」マークの灯を校庭に点し、全員で飯舘村の皆さまの心の平穏と復興を祈りました。

までいの心でラオスを応援！

THANKS

ソムチャイさん（ラオガム郡教育局役人）は…

「飯舘村のみなさんが、震災後のとても大変な状況の中にもかかわらず、ラオス・ドンニャイ村を支援してくださったことを、決して忘れません。開校式の思い出を、今でもみんなでよく話しています。」

「わたしたちも、震災後にたくさんの支援をいただきました。今日この日を、ラオスとの交流の始まりの日にしたい。東京2020に向けて、ラオスのホストタウンになって、オリンピックのときにはラオスの選手を応援したり、また支援できればと思います」

飯舘中学校　和田校長先生

AEFAスタッフが聞いた！

日本ってどんなところ？

ラオスの女子高生・テオンさんが語る印象

「日本の人は「システム」に沿って生きている。駅でもどこでもいろんなところにルールがあって、常に頭や気を使って生活しなくてはいけない。」これが、最も心に残った日本の印象だそうです。…なんだかドキッとしますね。たしかに、きちんとした「システム」があるからこそ、便利な生活を享受していますが、その分、日常生活で疲れることが多いのかも…。

ラオスを旅した人が“ラオスファン”になるのは、のんびりしたゆるやかな時間の流れと、わりとどんなことでも「ボーベンニャン(気にしないで)」と笑顔でOK！「あなたがサバーイ（機嫌が良い）でハッピーであることがわたしの喜び」という、おっとりした国民性、と言われています。

他にも！こんなことに気づきました！

●ごみの分別が徹底していて、街がきれい。
ぜひドンニャイ校でも取り入れたい。

●文化的なもの、古いお寺や神社を敬い、誇りに思い、大切にしてきれいに保っている。ドンニャイ村にもお寺があるので、自分たちできれいにしようと思う。

●日本の学校では、授業中にたとえ不正解であっても子供たちが積極的に発言をしている。先生に言われたことだけをするとか、受け身で指示されるのを待っているのではなく、自分から自分の意見を言っているのがすごい！先生と子供との距離がとても近く、学校を楽しんでいると感じた。

奈良公園で鹿に会う！

スタッフのつぶやき…

ラオスで仕事をしていると、のんびり・・もいいけれど、もう少し、責任感もって改善を継続することができれば・・と思ってしまうこともありますが、「ラオスらしさ」を大切に、AEFAも一緒に頑張っていきたいと思います。

茶道体験でお点前に挑戦！

テオンさんは帰国後、日本での経験をAEFA建設校に「出前授業」で伝えていきます。このことをきっかけに、さらに「日本」について興味をもち親しみを感じてくれる子供が増えたらと願っています。

ラオスの伝統舞踊を一緒に！

写真提供／飯舘村

奈良市立一条高校「よのなか科」に参加

ラオスの学校を支援されるWANG基金代表藤原和博氏が校長先生をつとめる一条高校を訪問。「オリンピック・パラリンピックを通してスポーツを考える」授業に参加しました。「脳を使って考えた！という、大変エキサイティングな時間でした。ラオスに戻ったら、この経験を報告、共有します。知識を教えるだけでなく頭と心をひらく、このような新しいことも取り入れていけたらと思います。」（ソムチャイさん談）

Child Right Promotion

子どもたちが先生になる日NO,2

チャイルドライツプロモーションとは…
ラオスの幼稚園の無い村で、小学校を拠点に、子供が主体の「子供による・子供のための活動」です。

サボン村 サボン小学校

山岳地帯にあるサボン村の子供達は、活動の準備を自分たちで行い、何時間も前から学校に集まって楽しみに待っているのだとか。引っ込み思案で受身がちな少数民族の子供たちが、自分たちで動きだし、生き生きと活動している様子は他の村ではなかなか見られない姿です。

「先生代わり」として活躍するボランティアの子供たちが企画した、テーマをもった様々なアクティビティで、家族・学校の先生以外の仲間（集団）の関わりや、ルールのある遊び方を学びます。

・“色”の認識、多彩な色があることを知る。
・自分の手型を水彩絵具で用紙に押す。「手」の機能、大切さを学ぶ。
・「ありがとう」などの挨拶や、ラオス語の発音・文字を学ぶ。
・手洗いや衛生活動の大切さを学ぶ。

ボランティアたちは、活動の振り返りも行っています。

サボン小学校のブンミー先生。（右）
教師であることが自分の人生である、生活のためだけではなく、教師としての人生を生きている方です。終業後や週末も教育活動に心を砕き、チャイルドライツの活動にも協力。子供たちの主体性を見守り、導いています。

教員養成短大をAEFA奨学制度で卒業し、ボランティアとして活動を手伝うプークくん、ピアくん。山岳少数民族の出身で、**「故郷の子供たちがきちんと勉強できるよう、教師として役立ちたい」**との夢をもっています。

サボンのような山岳地帯の僻村では、校舎建設支援後も、教材や先生の数が不足する等、街中と比べて不均衡な状態が続きます。そういった部分のサポートももちろん大切ですが、子供たちが得た様々な知識を活かして**「自分で考え、自分の意見をもち、行動できる」**ようになることも、またとても大事なことです。

この活動は、更に活動場所を広げ、ささやかながらその一歩を着実に前に進めています。

2016年度も、株式会社グローバルナレッジ、株式会社セカンドオピニオン、ソロプチミスト伊勢原のご支援で活動が継続されます（敬称略）。

AEFA Friend ship Award 2016
AEFA国際交流大賞

三重県津市高野尾小学校

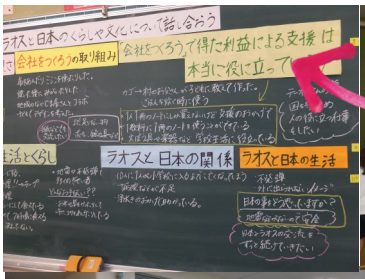
AEFAが招へいしたテオンさんたちが校門を入るなり、ラオス語で全校生徒が**「ようこそ！ずっと会いたかった。会えて本当にうれしいです」**と歓迎の言葉を伝えてくれました。突然のサプライズに感激するとともに「すごくクリアな発音！」とびっくり。「なかよし集会」では全校児童による「南中ソーラン」が披露され、小さな1年生も一生懸命踊ります。“迫力があって鳥肌がたったよー！”と興奮するテオンさんは「ﾄﾞｯｺｲｼｮﾄﾞｯｺｲｼｮ！」の掛け声を覚えました。

教育局役人ソムチャイさんから、交流校であるラオス・ピアラー小の様子を報告。**「高野尾小との交流のおかげでお手紙や作品をつくったりと、“自分の想い”を伝えることができるようになりました。**学校が楽しいところとなり、授業開始前に歌を歌ったり、支援していただいた楽器を使って音楽の時間や体育の時間に活用しています」。テオンさんからは、**「たくさん、友達をつくってください。友達からは、たくさんのことを学ぶことができます」**とメッセージを伝えました。

公開授業「ともに生きる」では、6年生がグループにわかれてラオスについての調べ学習したことや、総合学習の「会社をつくろう」でピアラー校を支援している活動を発表。ソムチャイさんは、**「ラオスに戻ったら、高野尾小のみなさんの「心」を、ピアラー小学校に届けます。」**と伝えました。

たいへんよくできました！

テーマ：ともに生きる

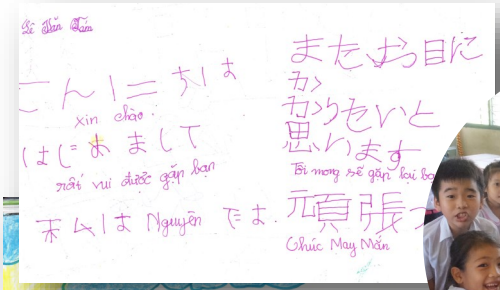


「ともに生きる」をテーマにラオスと日本の違いや気づきを発表。なぜ、どうして？をテオンさんから回答。

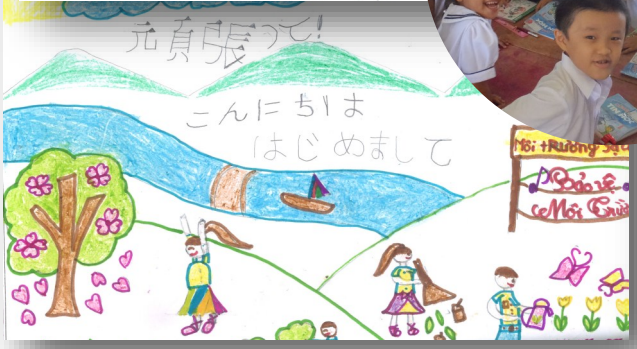
ベトナム クアンナム省 レバンタム小学校

テーマ：日本のみんなへ、伝えたい！

たいへんよくできました！



クー校長先生が持参した交流作品は、自分たちの生活や楽しい学校生活を絵で表した、お手紙絵本でした！昭和女子大学付属 昭和小学校からプレゼントされたパソコンで、日本文化や日本語を調べて、日本の友達へｍｐメッセージを綴っています。日本とベトナム、一緒に楽しくがんばろうね！との思いたつまった作品です！



特別寄稿　自分の力を信じて

福島県田村市立芦沢小学校６年　柳沼 歩大

ぼくが、ラオスを知ったのは、去年の道徳の授業がきっかけでした。国際理解の学習でＮＰＯ法人アジア教育友好協会の宍戸仙助先生から、ラオスのことを教えていただきました。

ラオスの子ども達は、学校に行くことができず、働いていることを聞きました。ぼくは、「どうして学校に行けないのだろう。学校に行けないなら、勉強しなくてもいいんだ。うらやましいな。」と思ってしまいました。だけど、話を聞いているうちに、とても貧しい国で、ノートや鉛筆も買えないこと、生きていくことも大変なことが分かりました。ぼくは、毎日ご飯を食べることができて、学校へ行くことができる自分が、どんなに恵まれた生活をしているのかを、初めて知りました。

世界には、とても大変な生活をしている子ども達がいるのです。そんな子ども達が、２０１１年の東日本大震災の時に、日本に募金を送ってくれたことをみなさんは、知っていますか。１年に数回しかもらえない、本当に少ないおこづかいの中から、ぼく達のために、募金を送ってくれたのです。

ぼくは、感動しました。それと同時に、はずかしい気持ちになりました。なぜなら、自分は、こんなにも恵まれた生活をしているのに、他の国の人のために、何かしたいと思ったことがなかったからです。「ぼくも何かしたい。」ぼくは、学級の友達と、ラオスの子ども達のためにできることを考えました。だけど、なかなかできることを見つけることができませんでした。そんな時、「そうだ。ぼく達が、学校の田んぼで育てているお米を販売して、そのお金を募金しよう。」という意見が出ました。ぼくも学級のみんなも大賛成でした。

そして、ぼく達の目標が決まりました。「ラオスへ募金を送る！」その日から、目標に向けた活動が始まりました。みんなで手分けをして、お米の販売に向けた準備をしました。「本当にできるだろうか。」という不安もありました。だけど、「絶対にできる。」そう信じて、みんなでがんばりました。販売の日が来ました。結果は、完売でした。ぼく達は、その収益金をラオスの子ども達に募金するために、もう一度、宍戸先生に学校へ来ていただき、手渡しました。ぼくは、今までに感じたことのない達成感を感じました。**「自分にもできることがある。」**そう感じることができたのです。

今、ぼく達は、次の目標に向けて活動しています。それは、ラオスに学校を建てること。そのために、今年は、お米と野菜を育てています。ぼくは、これまでの活動を通して、自分でもできると信じること、そして、勇気を出して行動することの大切さを知りました。ぼく達は、まだ子どもで、小さな力しかないかもしれません。でも、自分の力を信じて、一歩を踏み出したことで、大きな力へつなげることができたのです。「できる。できる。できる。」そうです。**自分の力を信じることができれば、必ずできることがあります。**ぼくは、これからも、自分の力を信じて、たくさんのことに挑戦していきたいです。

特別寄稿　みんなの笑顔をかかげての挑戦

品川区立城南第二小学校
みんなが笑顔になるPJ代表　佐藤 昭彦

2014年の学校公開の日、たまたま覗いた6年生全クラス合同授業が始まりでした。他の授業とは違う雰囲気。児童も集中している。皆がプロジェクターの画像に釘付け。私は自分の子供そっちのけで、6年生の授業に引込まれました。紹介されたアジアの貧しい地域の子供たちのキラキラした笑顔を前に**「幸せってなんだろう？」**と問いかける先生。その日から、自分に何ができるのか考えました。お金を寄付できる団体は沢山ありますが、寄付したお金の使われ方がよくわからなかったり、子供たちに自発的に動いてもらう方法も見つからず、なにも進まない状況で一年が経ち、学校公開での特別授業で再び宍戸先生との再会となりました。授業後に教壇にかけより、一年間何も出来なかった悔しさ、何かしたい思いを伝えました。

その後、AEFAの活動を紹介する写真の掲示や、ラオスの子供たちが織った布で作った雑貨の販売を子供たちが行いました。１日目は苦戦。2日目は子供らの仲間も増えて10数名になり、待ってるだけではダメだと、みんなが自発的にラオスやベトナムの子供たちの写真を持って大人に話しかけていきました。知らない大人に声をかける小学生、温かい目で聞いてくれる大人達が、イベント会場の雰囲気を優しいモノに変えていきました。興味を持った方々が次々にブースに足を運んでくれ大忙しとなり、予想以上の結果となりました。数ヶ月後、賛同してくれたママさん達に協力して頂き、「みんなが笑顔になるチマキ」を子供たちと販売することになりました。「生産者が笑顔」「作った人が笑顔」「買ってくれた人が笑顔」「ラオスのお友達が笑顔」をかかげての挑戦です。こちらも大盛況となり、大きな寄付金が集まりました。**子供のお小遣いでは出せない益金を、子供自身の力で作れたこと、そしてラオスの子供たちの喜ぶ笑顔に想いを馳せることができる喜びに、みんなが幸せな時間を共有することができました。**組織や形のない個人的なスタートとなりましたが、協力してくれた大人達で新たな組織が出来る可能性もみることができました。子供たちが、この活動を継続できる環境を整えるべく、仲間と相談しながら、これからも新たなチャレンジに挑みます。

時東ぁみアジアチャリティープロジェクト ～子どもたちに笑顔いっぱいの未来を～

SMILE PJ

時東ぁみさん

歌手・タレントの時東ぁみさんがベトナム北部カウビエン小学校の井戸や文具の支援を今年４月からスタートしました。ベトナムフェスティバル（代々木公園）や、自身でのライブ活動、様々な場所でチャリティの参加を呼びかけています。沢山の方々を巻き込み、ベトナムの山岳地域の子どもたちを笑顔でいっぱいにしたい！と活動。９月にベトナムを訪問し、各学校での交流とTシャツなどの支援を通じて山岳地域の現状とニーズを再確認。村人や生徒たちと触れ合い、日本に帰国後メディアなどで報告しています。今後の活動が楽しみです。

アエファサポーターズ 募集中！

アジアクッキング教室のシェフ！

青木 文子さん

AEFA会員・ボランティアとして、長年サポートしてくださっている、お料理がとっても上手な青木さん。AEFAフォーラムの懇親会におしゃれで美味しいアジアンフードを振舞ってくださったり、今年はAEFA初の試み「アジアンクッキング教室」の講師として大活躍！試食と試作を重ね、ラオス家庭料理やベトナムのサンドイッチなど、なかなか日本では味わうことのできない料理を参加のみなさまと一緒に調理。美味しく楽しくアジアに親しみ、交流を深める機会となりました。

「これからも 少しでも、AEFAのみなさんのお手伝いができたらうれしいな。」

ベトナム＆ラオスからの留学生

カンさん＆ヴィさん＆YNU勉強会

東遊運動の精神を受け継ぎ、ベトナムの国つくりを目指してグエンドックホーエ校長先生（写真中央）が25年前に設立した「ドンズー日本語学校」。これまでに1500人近くの学生が日本に留学しています。現在、横浜国立大学（YNU）で学ぶ２人の協力で、AEFAのベトナムプロジェクトが新たなステージを迎えています。（P5参照）

6月のベトナムの先生方招へい事業には**カンさん**が、9月のベトナム開校式には**ヴィさん**が同行、通訳だけでなく様々にサポートしてくれました。同大学にはドンズー日本語学校卒業生による「勉強会」があり、役立つと思われる日本の書籍のベトナム語訳、ベトナムにおける社会問題解決プロジェクトなど、独自の活動を自主的に行っています。

ロアンさんは、東京農業大学に在学中。AEFA出前授業やベトナム料理会などで大活躍！出前授業では、ベトナムの文化を紹介、バインミーの会でも生春巻きをプロ並みの手つきで教えてくれました！他、ベトナム語の翻訳などでもAEFAスタッフの支えとしてがんばってくれています！

サイヤリンさん

ラオス中部サヴァナケット県の農村出身の留学生。「アジアンクッキング教室」では、ラオス家庭料理のアドバイザーとして、もち米の蒸し方や食べ方をはじめ、ラオスについてたくさんのことを教えてくれました。現在はラオス国立大学に復学し、日本語の勉強を続けています。アジアと日本をつなぐ若者たちが、AEFAの建設校からもいつか誕生することを願って・・！

子供たちの心をつなぐ

三重県津市　田中　彌先生

津市高野尾小学校とラオス・ピアラー小学校の交流を、長くご支援いただいています。ピアラー校も、建設前の2009年に訪問。戦争時爆撃されたクレーター跡が残る校庭や、赤土でぬかるむ道を歩いて村を訪問されました。今回のテオンさん招へいについても、大変お世話になりました。

◆ AEFA往来　2016.4～2016.12

5月　●ラオスフェスティバル出展（29・30日）
6月　●ラオス家庭料理会（11日）
　　●理事会開催（22日）
　　●ベトナム中部教員研修（25日～7月3日）
7月　●谷川出版記念交流会＠野田市（30日）
8月　●谷川出版記念交流会＠東京（6日）
　　●フォーサイト東大生ベトナム研修（7日～11日）
　　●AEFAカフェ（24日）
9月　●ベトナム・ナンチャミー視察（7日～9日）
9月　●ベトナム・マックディンチ小学校開校式（9日）
　　●ベトナム・ティエンハー小学校開校式（12日）
　　●ベトナム・バータン小学校開校式（13日）
　　●ベトナム・バオリン小学校開校式（14日）
　　●ベトナム・バンテン小学校開校式（15日）
　　●理事会開催（30日）
10月　●ラオス高校生招へい（2日～9日）
11月　●ラオス・ノンコーソン小学校開校式（1日）
　　●ラオス・パスム小学校開校式（2日）
　　●ラオス・ドンニャイ中高校開校式（4日）
12月　●ベトナム・アンフータンB小学校開校式（12日）
　　●ベトナム・ゴーコン小学校開校式（21日）

7/30 & 8/6奔走老人出版記念交流会

7/30（土）千葉県野田市、8/6（土）都内「ﾌﾞﾙｯｸｽｸﾞﾘｰﾝｶﾌｪ」にて開催いたしました！
沢山の方々にご参加いただき、プロジェクトへの思いを語って頂いたり、今後の活動のアイディア意見交換なども。谷川に続く「奔走老人」チーム、これからの活動がとても楽しみです！

AEFAフォーラム開催決定！

「第11回　AEFAフォーラム」を下記のとおり開催いたします。理事長やマイスアンカンさん（予定）のお話、AEFA活動報告のほか、クリスマスらしいイベントも？お誘いあわせのうえ、ご参加ください。（詳細はfacebookにて）
日時：2016年12月25日（日）13：30～
　　入場無料
会場：ポプラ社　本社

AEFAからのお願い

皆様からのあたたかなお気持ちで、ラオスへの文房具や衣類、おもちゃ等のご支援を多くお預かりしています。

●ノートなどの紙類は大変重いため、現地へ郵送をお願いしております。

●衣類はジャージやフリースなど、洗濯が楽で動きやすいものを中心に。お洗濯の上、汚れやシミ等が無いようご確認をお願いします。

●文具類は、ペン類は書けるかどうかの確認と、鉛筆には鉛筆削りと消しゴムもつけるなど、現地での使いやすさを考えたご協力をお願いしています。

現地へ郵送がオススメ

量が多い場合、スタッフが手持ちで現地へ運ぶのに限界があります。ダンボール１箱約7000円ほどで、ラオス等へ船便で送ることができます。
送料（一部でも大歓迎です）もあわせて、ご理解とご協力をお願いいたします。
よろしくお願いいたします！

ラオス家庭料理会6/11 ベトナムバインミーの会10/15

ラオスとベトナムの家庭料理を楽しみながら、現場の状況や文化・伝統を学ぶ料理会。
大好評のうちに開催しました！ラオス・ベトナムの留学生と交流したり、有意義な時間を過ごしました。これからも、皆さまのご参加、お待ちしております！

Amazon のお買い物で国際協力

AEFAのHPの右下の[amazon.co.jp]をクリック！そこからお買い物をされますと、皆様の購入金額の３%が自動的にAEFAに寄付されます。ご協力のほど、よろしくお願いします。

私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。

ベトナム：Viet-Nam Assistance for the Handicapped(VNAH)/Saigon Children's Charity(SCC)/Research and Communication Centre for Sustainable Development(CSD)
ラオス：Association for Community Development(ACD)
タイ：Raks Thai Foundation(Care Thailand)